

李鴻章道

明治28年(1895)3月24日、第3回目の会議を終えた李鴻章は、宿舎である引接寺への帰途、小山豊太郎という青年に狙撃されました。この事件によって会議は一時休会し、負傷した李鴻章には明治天皇をはじめ下関の各方面からも多くの見舞いが寄せられました。そのかいもあり、まもなく李鴻章は快復し、4月10日に会議は再開されました。

事件後、李鴻章は大通りを避け、山沿いの小径を往復しました。この小径は、いつしか「李鴻章道」と呼ばれるようになりました。



■ 李鴻章



■ 引接寺(旧本堂)

永禄3年(1560)に創建され、小早川隆景の菩提寺にもなった浄土宗の古刹です。日清講和会議の際には、李鴻章一行の宿舎となりました。

■ 旧春帆楼



日清講和会議の会場となった旧春帆楼。明治の初め、医師の藤野玄洋が開業した月波楼医院を、のちに妻のミチが改装し料亭兼旅館としたものです。



■ 伊藤博文と陸奥宗光像

Information

利用のご案内

- 開館時間/午前9時～午後5時(年中無休)
- 入館料/無料

交通のご案内

- JR下関駅よりタクシー約10分
- JR下関駅より長府方面行バス乗車
赤間神宮前バス下車、徒歩約1分(春帆楼隣)



日清講和記念館

〒750-0003 下関市阿弥陀寺町4番3号

お問い合わせ先

下関市教育委員会文化財保護課 083-254-866

〒750-8521 下関市南陽町大字綾羅木454

TEL(083)231-469 下関市立考古博物館内

下関市教育委員会文化財保護課

☎ 083-254-4697

☎ 083-252-3867



日清講和記念館

THE SINO-JAPANESE
PEACE TREATY MEMORIAL HALL

日清講和記念館

この記念館は、明治28年（1895）春、この地で開かれた日清講和会議と、下関条約と呼ばれる講和条約の歴史的意義を後世に伝えるため、昭和12年（1937）6月、講和会議の舞台となった春帆楼の隣接地に開館しました。

浜離宮から下賜されたといわれる椅子をはじめ、講和会議で使用された調度品、両国全権の伊藤博文や李鴻章の遺墨などを展示しています。また、館内中央には講和会議の部屋を再現し、当時の様子を紹介しています。



■ 草花文筒絵硯箱



■ 浜離宮から下賜された椅子



■ フランス製のストーブ



■ 再現した講和会議場



■ インク壺とインクペン

日清講和会議

朝鮮半島の権益をめぐり対立していた日本と清国は、明治27年（1894）甲午農民戦争（東学党の乱）をきっかけに開戦しました。この戦争は日清戦争と呼ばれ、戦況は日本軍の圧倒的優勢に進み、翌年清国は日本に講和の打診を始めます。

明治28年（1895）3月19日、清国の講和使節団を乗せた汽船が関門海峡の沖合に停泊しました。翌日から下関の料亭春帆楼で日清講和会議が開催されました。この講和会議には日本全権の伊藤博文、陸奥宗光、清国全権の李鴻章をはじめ両国の代表11名が出席しました。講和に向けて会議はくり返しおこなわれ、4月17日に講和条約が調印されました。

下関が講和会議の地に選ばれたのは、日本の軍事力を誇示できる最適な場所であったからです。事実、日本の軍船が大陸に向かい狭い海峡を通過する光景は、清国使節団に脅威を与え、その後の交渉は日本のペースで展開したといわれます。

このとき調印された講和条約は下関条約と呼ばれ、清国は日本に朝鮮半島の独立承認・領土の割譲・賠償金の支払い等を約束しました。



THE SINO-JAPANESE
PEACE TREATY MEMORIAL HALL